人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校教育活動を通し「学びづくり」「仲間づくり」「生活づくり」の３つの場面から組織的に進められている実践事例

１．基本情報

○都道府県名及び市町村名

佐賀県三養基郡基山町

○学校名

基山町立基山中学校

○学校のＵＲＬ

http://cms.saga-ed.jp/hp/kiyama-j

２．学校紹介

○学級数

【通常の学級】１年生５学級、２年生４学級、３年生５学級【特別支援学級】２学級
【合計】１６学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】４７４人（平成２６年１１月４日現在）
（内訳：１年生 152 人、２年生 153 人、３年生 169 人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

人権教育総合推進地域事業（平成 25～27 年度）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】
「 将来を見通した人間力（心力・学力・体力）の育成」
～　チャンス・チャレンジ・チェンジ　～
【人権教育に関する目標】
一人一人がよさを発揮し、互いによさを認め、共に高め合う、児童生徒の育成
～小中連携を基盤とした系統的・継続的な教育活動を通して～

○人権教育に係る取組一口メモ

生徒一人一人が目標に向かって主体的に取り組もうとする態度やその伸び、工夫する姿などを「よさ」として捉え、相互の「よさ」を肯定的に評価し合い、自信や意欲を高めさせていく。さらに、次の目標達成に向かう中で、自らの可能性を気づき・見出し、自己の生き方に対する自信へとつなげていく。

○人権教育にかかる取組の全体概要

基山町は平成25年度から3か年の「人権教育総合推進地域事業」の研究指定を受け、本校が拠点校として町内の基山小学校、若基小学校とともに３校が連携し、研究に取り組んでいる。

【本校の研究主題】

自ら学び・考え、自他のよさを認め、高め合う生徒の育成

～自主的な活動と学び合いを通して～

【主題設定の理由】

中学生として本校に通う生徒にとって最も大切な権利とは「生活が楽しく充実すること」であると考える。そのためにはいじめや差別がなく一人の人間として認められた学校生活を送り、学ぶことが保障されなければならない。これを実現していくために、自らの考えで行動でき（よさを発揮)、自他を認め合い尊重し合い（よさを認め）ながら、高め合う生徒の育成を目指さなければならない。

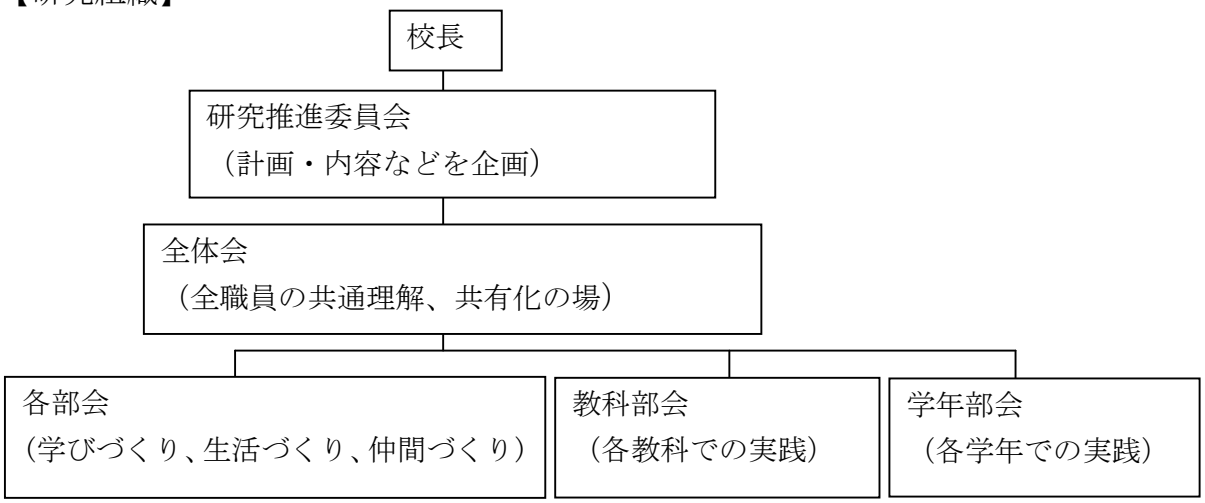
また、そのとき教師に必要になってくるのは、価値観や考えの教え込みより、生徒の自主・自立・自律的な活動の過程や学び合うことで生徒同士が共同して考えていく過程を重要視することであると考え主題を設定した。

【研究の柱】

小中９年間の継続したスパンを通し、授業や生徒会活動、学級活動、学校行事などすべての教育活動において、実践を多く取り入れることが必要である。そのために、以下の３点を各小中学校の共通した研究の柱とした。

・一人一人が大切にされる学習づくり（学びづくり部会）
・自己指導能力を高める生活づくり（生活づくり部会）
・互いのよさが認め合える仲間づくり（仲間づくり部会）

【研究組織】



３．特色ある実践事例の内容

【学びづくり部会の実践】

学習において大切な目標の中に「生徒一人一人の学びを保障する」ことがある。しかしながら、個性や能力に差のある生徒たちを教師一人で対応するには、当然ながら限界がある。そこで、生徒たち自身が互いの力を借りながら学びをつくり上げる「学び合い」が必要となってくる。そして、この「学び合い」を中心に据えた学びの環境づくり通して、自ら学びとる姿、伝え合う・学び合う姿、意欲的な姿を身につけ、一人一人が大切にされる学習づくりの確立を図っている。

１．一人一人を大切にする授業づくり

(1)　「学び合い」のある授業

①　「わかる喜び、できる喜び、共に学ぶ喜び」を保障する学び合いの実践

②　学び合いのルールの確立・教室掲示（生徒側・職員側）

③　学び合いによる座席配置の在り方

④　学び合いにつながる課題の工夫

学びあいのルール

①わからないときは
　わからないと言おう。

②友達が教えてというまで、
　あたたかく見守ろう。

③友達に教えてといわれたら、
　一生懸命教えよう。

④友達の話は最後まで聞こう。

⑤納得するまで話し合おう。

なかまと共に高まろう。

(2)　授業研究会

①　校内授業デザイン（指導案）の工夫

②　授業参観の視点と教師も学び合う授業研究会の在り方

③　研究授業を通して授業力向上

・　小中連携合同授業研究会

・　講師招へい校内授業研究会

・　校内授業研究会

・　学びづくり部内授業研究会

(3)　学びの風土づくり

①　発表の場や話し合う場の意図的な設定

②　２分前着席・チャイム黙想の取組

③　授業態度改善のためのチェック表の活用

④　ノーチャイムウィーク・学習クラスマッチなど生徒会活動の実践

⑤　ＩＣＴ機器の利活用（電子黒板、大型テレビなど）

・　生徒が自ら学ぶ意欲を高めるため手段に活用

・　学び合いとの関連付け

２．基礎基本の確実な定着を図るための実践

(1)　朝の時間の活用

①　朝自習と朝読書の定着：落ち着きのある学校生活開始　１学期

②　朝自習・朝テストの工夫（5 教科）：基礎学力の定着　２学期～

③　朝自習や朝テストにおいて、学び合いの活用

(2)　家庭学習の充実

①　自学ノート１Ｐ（昨年度）：習慣化

②　全学年５教科による曜日課題：習慣化と時間の確保

③　テスト計画作成：１年時より習慣化と保護者との連携

(3)　補充学習による学力補充・支援

①　放課後補充学習の実施：週２回（数学・英語）１・２年生希望者

②　土曜補充学習の実施：月２回　３年生希望者

③　長期休業補充学習の実施：夏季休業は約１０回　全学年希望者により、学習への関心意欲を喚起。基礎学力の定着

３．道徳や学級活動、総合的な学習の時間と人権教育との関わり

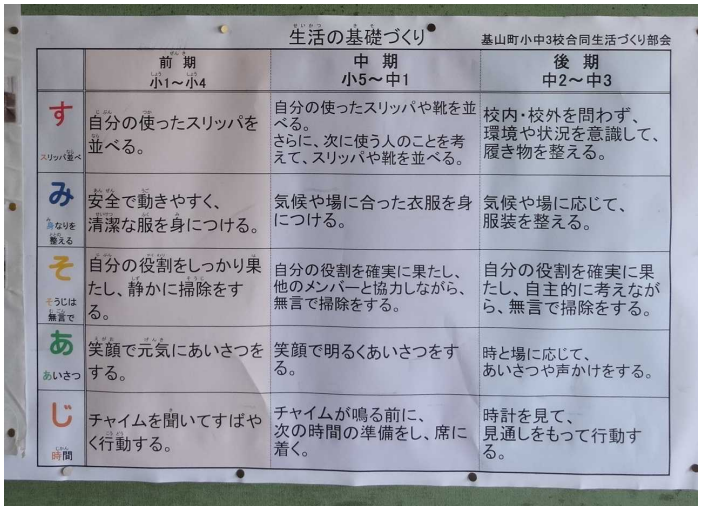
(1)　人権感覚を育み、人権意識を高める授業実践

(2)　人権行事に関連をもたせた道徳・学級活動の計画的な授業実践

(3)　よさを発揮・よさを認め・高めるための総合的な学習の時間の計画

【生活づくり部会の実践】

学校において人権感覚を育成し、人権意識の高揚を目指して人権教育を推進していくことは、生活規律や生活習慣などいわゆる生活面の向上と大きく影響を及ぼし合う関係であると考える。そのような関係の中で、生徒一人一人の自己指導能力を高める手立てを取ることは、教育活動の根幹となる人権教育と生活面の確立をつなぐ鍵となると確信し、以下の取り組みを行っている。



生活の基礎づくり　基山町小中3校合同生活づくり部会

	前期 小1～小4	中期 小5～中1	後期 中2～中3
す スリッパ並べ	自分の使ったスリッパを並べる。	自分の使ったスリッパや靴を並べる。 さらに、次に使う人のことを考えて、スリッパや靴を並べる。	校内・校外を問わず、環境や状況を意識して、履き物を整える。
み 身なりを整える	安全で動きやすく、清潔な服を身につける。	気候や場に合った衣服を身につける。	気候や場に応じて、服装を整える。
そ そうじは無言で	自分の役割をしっかり果たし、静かに掃除をする。	自分の役割を確実に果たし、他のメンバーと協力しながら、無言で掃除をする。	自分の役割を確実に果たし、自主的に考えながら、無言で掃除をする。
あ あいさつ	笑顔で元気にあいさつをする。	笑顔で明るくあいさつをする。	時と場に応じて、あいさつや声かけをする。
じ 時間	チャイムを聞いてすばやく行動する。	チャイムが鳴る前に、次の時間の準備をし、席に着く。	時計を見て、見通しをもって行動する。

１．　９年間の生活基礎づくり

(1)　「スミソアジ」の取組

９年間のスパンで小中連携しながら、生活習慣の確立のため、合い言葉を含め**「ス・ミ・ソ・ア・ジ」**の定着を目指している。

・　「**ス**」とはスリッパや靴を並べること。

・　「**ミ**」は身だしなみのことであり、服装や髪などを整えること。また、校舎内の環境を整えること 。

・　「**ソ**」は掃除のことであり、目的を持って進んで掃除すること。（無言清掃）

・　「**ア**」は挨拶をすること。

・　「**ジ**」は時間を守ること。

(2)　「無言清掃」の取組

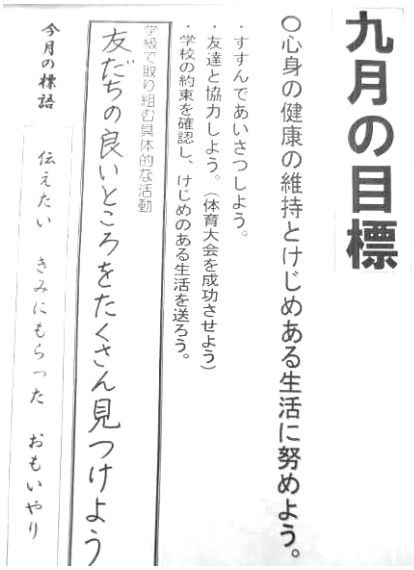
「無言清掃」を行うことで、生徒一人一人の心の成長を目指し、集団生活の中で必要な秩序やモラルの意識向上、生き方学び方の活力になることを目的とし

ている。清掃活動で学習環境をきれいにすることはもちろんのこと、無言で掃除をすることで、自分自身を自問し、次の４つの心を育て発達段階に必要とされる落ち着きのある心の成長を促している。

・我慢する心　・・ しゃべらずに自問を貫く我慢強さ
・気づきの心　・・ 汚れている所や周囲の様子に気がつく気働き
・思いやりの心・・ 友達を手伝える思いやりと認め合い
・感謝する心　・・ 環境美化を通した感謝の念

２．小中連携での取組

行事や生活状況を見据え、各月にあった生活目標を各教室や廊下に掲示している。これを元に、各学級で話し合い、目標を達成するための「具体的な活動」を決めることにしている。各月の生活目標に絡めて、各学級の改善すべきところや更に良くしたいところなどを生徒たちが主体となって考えるので、一人一人が生活目標を意識することができている。また、小中で連携して、各月の生活目標の中に「今月の標語」として、人権に関わる標語を掲載し、常に心温まる言葉を目にすることで、生徒の優しく穏やかな心を育てることに努め、人権の啓発に役立てている。


九月の目標
○心身の健康の維持とけじめある生活に努めよう。
・すすんであいさつしよう。
・友達と協力しよう。（体育大会を成功させよう）
・学校の約束を確認し、けじめのある生活を送ろう。
学級で取り組む具体的な活動
友だちの良いところをたくさん見つけよう
今月の標語
伝えたい　きみにもらった　おもいやり

３．週末アンケートの実施

毎週末に行うことで、生徒の悩みや不安、学級内の問題を早期に発見し、問題行動やいじめの解決に役立てることをねらいとしている。

内容は、生徒の学校での過ごし方に関すること（スミソアジなど）、生徒の悩みや不安に関すること、学級の様子に関することなど、基本的な生活習慣に関することや教育相談に関わることなどが含まれている。その時々で必要な質問項目を立てるので、気になることを早い段階で把握することができ、早期解決の糸口をみつけることができている。

さらに、アンケート前に教師からの訓話を放送し、生徒が自分自身を振り返るための雰囲気づくりを行っている。

４．その他の取組

(1)　温かさ言葉や「よさ」を認め合う人権コーナーの設置
(2)　ｉチェックを活用して、児童生徒理解の共有化を図る個人カルテ（予定）

【仲間づくり部会の実践】

学校において、一人一人の生徒のよさを発揮し、互いのよさを認め、高め合うためには仲間との好ましい関係が不可欠であり、いろいろな環境や場面において仲間との関係を築いていかなければならない。そして、そのことが基盤となることで自己肯定感・自己有用感などに強く繋がることになる。こと学校生活において、生徒（会）活動や学校行事、学年行事、実行委員会等の活動を通し、自主・自立・自律的な姿を出番役割承認する場面を数多く設定しているところである。

１．自主・自立・自律を育む生徒会活動の充実

(1)　普段の委員会活動の充実：本年度後期より全生徒参加による専門委員会活動

(2)　自主運営の生徒集会

①　自分たちの手で計画、司会、進行、運営そして反省会（承認・評価）

②　体育館への入室・退場の在り方も呼びかけ

③　歌声ボランティア（校歌斉唱）

(3)　小中連携あいさつ運動（生徒会と児童会の交流として）

(4)　教育活動の後押し

・　生活面、学習面、読書活動などでのクラスマッチ形式で雰囲気づくり

２．　実行委員会など自主的な活動（立候補での出番）

(1)　全学年としての行事

・　体育大会、文化発表会、人権週間（集会）、平和集会

(2)　各学年としての行事

・　修学旅行、宿泊訓練、高校出前授業、小学生体験授業

(3)　学年集会での出番役割承認

①　自分たちの手で作り上げる集会

②　学年の生徒が発表する場

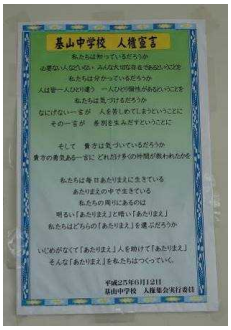
(4)　始業・終業式での出番

・　学期の反省、学期に向けて発表者（よさの発揮）

２．人権啓発活動

(1)　掲示物や人権コーナーの設置による啓発

生徒会や実行委員会が行った行事については記憶に残るよう概要をまとめた掲示物や作品等を校内に人権コーナーを作り展示した。これらは全校生徒が利用する階段付近を中心に掲示し毎日目にすることで意識づけを行っている。

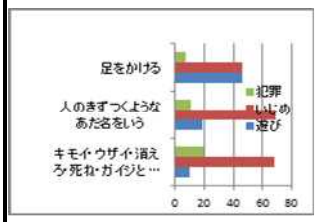


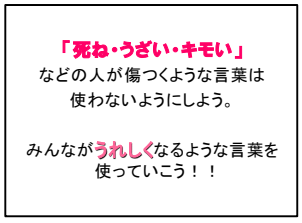
(2)　人権週間、人権集会の取り組み

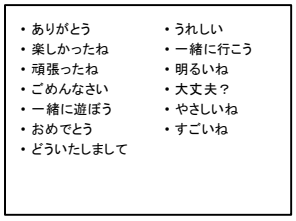
６月、12月に人権について考える時間をとることで、「生徒たちに自分の人権意識について再確認させるとともに、友人との関わり方について考えさせる」ことを目的に、人権週間を設定し、実行委員を中心に自ら企画・運営を行っている。

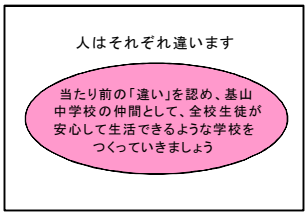
①　アンケートにより学級・学年の現状把握
②　人権作文の放送による読みあげ
③　人権集会での学年・基山中の現状報告
④　いじめ撲滅宣言と人権宣言の宣誓・採択
⑤　ＮＨＫいじめを考える行動宣言：１００万人の行動宣言へ参加
⑥　人権作文・人権標語の作成と発表
⑦　町社会福祉協議会と協賛した人権映画観賞会・人権コンサートの開催
⑧　人権講演会の開催

など直接的な人権感覚の育成・人権意識の高揚・人権啓発な取組としている。









４．実施する際に生じた課題及びその解決策

１．学びづくり部会について

この部会では学び会いの授業を毎日の授業の中にいかに多く取り入れていくかが大切になるが、「どのような授業をすれば良いのかわからない」「課題の設定がわからない」「時間が足りない」などの意見が出てきた。それに対し先進校視察を行うことと「まずはやってみて改善点を見つける」と言うスタンスをとってきた。このために授業研究会はなるべく多く開催することにし、「授業の良し悪しを問わず、自分が学んだことを話す」ということを繰り返し説明してきた。時間については、チャイムと同時に授業をはじめ、授業の中に無駄な時間がないかを見つめ直し板書や前時の復習などの量を考えることで対応した。

２．生活づくり部会について

無言清掃について、生徒たちは、はじめはきちんと取り組んでいたが、慣れてくるとだんだんおしゃべりが出てきた。これは目的意識がだんだん薄れてきたためと思われるので、目的意識をしっかり持つために、現在では掃除の前に学年ごとの集会を行い、目的意識をしっかり持つよう教師からの１分程度の訓話を聞いてから掃除を開始するようにしている。

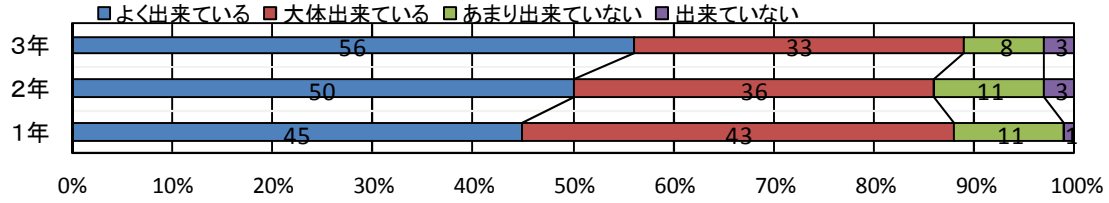
３．仲間づくり部会について

実行委員会形式をやる前は「教師がやった方が早い」という声が多かったが、実際にやって見ると事前に時間はかかるが、一度動き出すとこちらの方が早いことも多くなってきた。これは生徒が主導することで他の生徒たちも協力しようとする気持ちがはたらくことが原因と思われる。このことを職員が理解してからはほとんどの学校行事を生徒主体でやることに抵抗がなくなってきている。

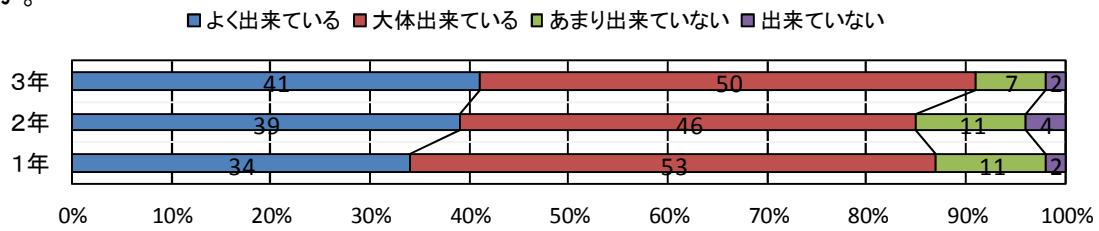
５．実践事例の実績、実施による効果

本校の取り組みは、まだ取り組みの途中のものが多く、効果として経年経過がとりにくい状況である。しかし、学び合いだけは１年早く取り組んでいるので、その結果を分析した。『１．授業中だれとでも話合いやグループ活動を行うことができていますか。』『２．自分と違った意見をもった人やその考えを笑ったりすることなく認めることができますか。』の結果を見ると他学年より早くから取り組んだ３年生がよくできているという結果多い。他人の意見を聞き入れ、認めることができるのは人権教育の最も基本的なことであり、最も大切なことである。これが高いというのはある程度の効果が出ていると思われる。

１．授業中だれとでも話し合いやグループ活動を行うことができていますか。



２．自分と違った意見をもった人やその考えを笑ったりすることなく認めることができますか。



実際に授業を行っていても、この１、２年は明らかに授業の態度が良くなり、学ぼうとする態度が表れてきた。また、休み時間や早朝から学習している生徒も増えた。

学校行事に関しても、自主的な活動が増え、何のためにやっているかを意識する生徒が増えた。そのため、ボランティア活動などの呼びかけにもよく応えてくれる生徒も多くなった。

６．実践事例についての評価

全体的な評価としては落ち着いた学校生活を送っていることが実感できる。特に学校開放ウィークや学校評議委員等のアンケートでは「授業態度が落ち着いた」「校内がきれいになった」「靴箱がきれいに並んでいる」という言葉が多く見られるようになった。子供たちの関係の指針になる不登校の数は大きな改善はないものの減少傾向にある。子供たちの人権感覚を高めるためには、授業や行事、部活動などすべての学校生活において意識をしていかねばならならず、３つの部会での取り組みの成果だと思われる。しかし、この研究はまだ途中の段階であり、しっかりとした数値等での評価ができていない。今後、この評価をもっとわかりやすく確実なものにするための評価の工夫をしていく必要がある。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

基山町立基山中学校
小中の９年間継続した教育活動と人権教育を視野に、「一人一人が大切にされる学習づくり」、「自己指導能力を高める生活づくり」、「互いのよさが認め合える仲間づくり」の３点を各小中学校共通の研究の柱として取り組んでいる。 本校では、３つの研究の柱に対応して、「学びづくり部会」、「生活づくり部会」、「仲間づくり部会」を立ち上げ、それぞれの目標に向かって各部会が具体的な取組を行っている。中でも「生活づくり部会」の基本的な学校生活の中で育む人権感覚・人権意識への小中連携した取組、生徒の自主・自立・自律を基本とする生徒会活動や実行委員会方式の行事活動に取り組んだ「仲間づくり部会」の実践は、「生徒自らの力で成長」する契機となると期待できるものである。